

春日井淳夫先生 新しい仲間「春日井淳夫」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学政治経済学部 公開日: 2012-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高岡, 享 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/12495

新しい仲間「春日井淳夫」

本年四月に健康・運動科学科目担当の専任講師として、本学部に迎えた春日井淳夫君を紹介したい。

同君の紹介は既に教授会において報告したが、ここでは経歴や学術的な面での紹介は簡単に留めておきたい。

同君は筑波大学附属高から筑波大学、同大学院修了までストリートで昭和六十三年に修了し、その後、福岡大学助手をはじめ筑波大学の文部技官を経て、関東学院大学の非常勤のちに、平成四年から本学非常勤講師として学部学生の教育に尽力を願って居り、その間に筆者は彼の温厚で教育熱心な人となり接する機会を得ていた。

一方、学術的業績は原著論文十三編をはじめとして、既に二十編を超える論文を学会誌や大学紀要に発表



高岡 享

し、幾多の優秀な成果を運動生化学や運動生理学の分野で残している。

特筆すべきは、平成五年度の日本体力医学会における学会賞の受賞である。このように同君は人柄や学問的資質も十分に兼ね備えた将来性豊かな若者である。

前置きはここまでとして、同君のプロフィールを眺めてみることにする。同君は御存知のように巨漢である。本人の申告によると身長一七五センチ、体重一一〇キロ、胸囲一一〇センチ、胴囲一〇〇センチ、ヒップ一一〇センチ、大腿囲六五センチ、大腿囲に至っては女性のウエストよりも太いことになる。大相撲の新弟子検査の条件も十分にクリアーできる巨体の持ち主である。彼のスポーツとの出合もこの巨体故のよう

本人の言によると小学四年生で既に肥満児であったという。肥満解消のため、彼は御両親の奨めで剣道を中学卒業まで続けたが、その巨体は一向に変わらなかつたようだ。しかし、その間、真面目に努力したお陰で二段になっていたという。高校に入り、教育実習に來られた先生の勧めで柔道に転向し、高校卒業時に二段を得、大学卒業時に三段、大学院で四段、平成四年に五段を取得している。

丁度この時期は女子柔道の国際化により、優秀な選手が輩出した時期で、日本の女子柔道の一時期に多大な貢献のあった山口香選手は彼の一年後輩でもある。また平成元年から六年間、筑波大学柔道部の女子部コーチとして、同チームを全日本女子柔道での優勝に貢献しており、平成三年には第四六回国民体育大会の成年女子の茨城県監督も若くして勤めている。

晩生の同君は大学時代はサブマネジャーやマネジャーを経験し、下積みの裏方の厳しさを体験もしている。

多くの柔道選手は幼い頃よりの英才教育によって、育てられて来ているのに較べ、彼の場合は、大変な下積み生活をして来たことが想像できる。彼の名誉のた

めに一言加えれば、肥満児であったがために、運動の実践を強いられたが、運動能力が低かつた訳ではない。現に、千五百米持久走では巨体に係わらず五分三十秒の立派な記録を有しているし、脂肪肥りではなく、筋肉質に近い巨体であることがこれを物語っている。このことはまさに、身体教育の実践者であり、同君が一生涯背負わなければならない立場にもあることになる。

小学生の肥満の問題は戦後、日本の社会的環境の変化、特に、経済成長に伴って起こった飽食の習慣に起因する社会問題でもあったし、現在でも続いている問題でもある。御両親の寵愛と苦悩の様子が想像に難くはない。良し悪しは別にして、その意味では同君は時代の申し子でもあるといえよう。

また、同君のプライベートルな面に立ち入って恐縮であるが、彼はこの二月に結婚し社会生活においても名実共に一人立ちした。新婚十ヶ月でもある。

現在の結婚の形態にはいくつかの形があるようだが、一般的には神社や教会で結婚式を挙げ、しかるべき場所で披露宴を催することが通常である。この形式は益々派手さを増し、現在の相場で数百万円の費用が

かかるようなものもあり、「ハデ婚」と呼ばれていることは衆知の通りである。

同君は典型的な「ジミ婚」であったようだ。特に奥様の絶つての希望により、披露宴はせず両家の両親の立会いで挙式だけを行うという質素なものにしたようだ。筆者の世代では考えられなかったことでもある。このような合理的な実践は大いに歓迎すべきことであるが、中々実行するのは難しいことである。

このような機会持ち得る相手方との出会いや社会的背景にもまた、彼の好運さを禁じ得ないし、人生の門出としてこれ以上ない恵まれた出発でもあろう。

順風満帆の門出は兎角、風のない状態に陥った時には弱いもので、永い人生のうちでは必ず二度や三度のスランプや苦境に出合うことは容易に想像できる。当然、賢明な同君は苦境やスランプを脱する器量は持っていることであらうし、乗り切る確信もあろう。

好漢同君の今後の努力と発展を大いに期待している。以上、春日井淳夫氏的一端を披歴し、紹介とした。

最後に、社会人一年生の若い研究者の卵は組織としてのメンバーとして、右も左も判断できないとも想像

に難くない。学部の諸先生はじめ、先輩諸氏の力で、温かい励ましをもって育てて頂きたく、お願い申し上げます。この拙い文の筆を置くことにする。

(教授・健康・運動科学専攻)